

令和6年度（2024年度）
大阪市イノベーション促進評議会資料



1. 最近の主な取組について	2
2. 前回評議会（2023年12月12日）における主なご意見について	12
3. 今後の取組について	13

1. 最近の主な取組について

1-1. OIHの取組

1-2. スタートアップ・エコシステム拠点都市の取組

1-3. 産学官連携（大学の技術シーズの事業化支援）

1-4. 数字で見る成果

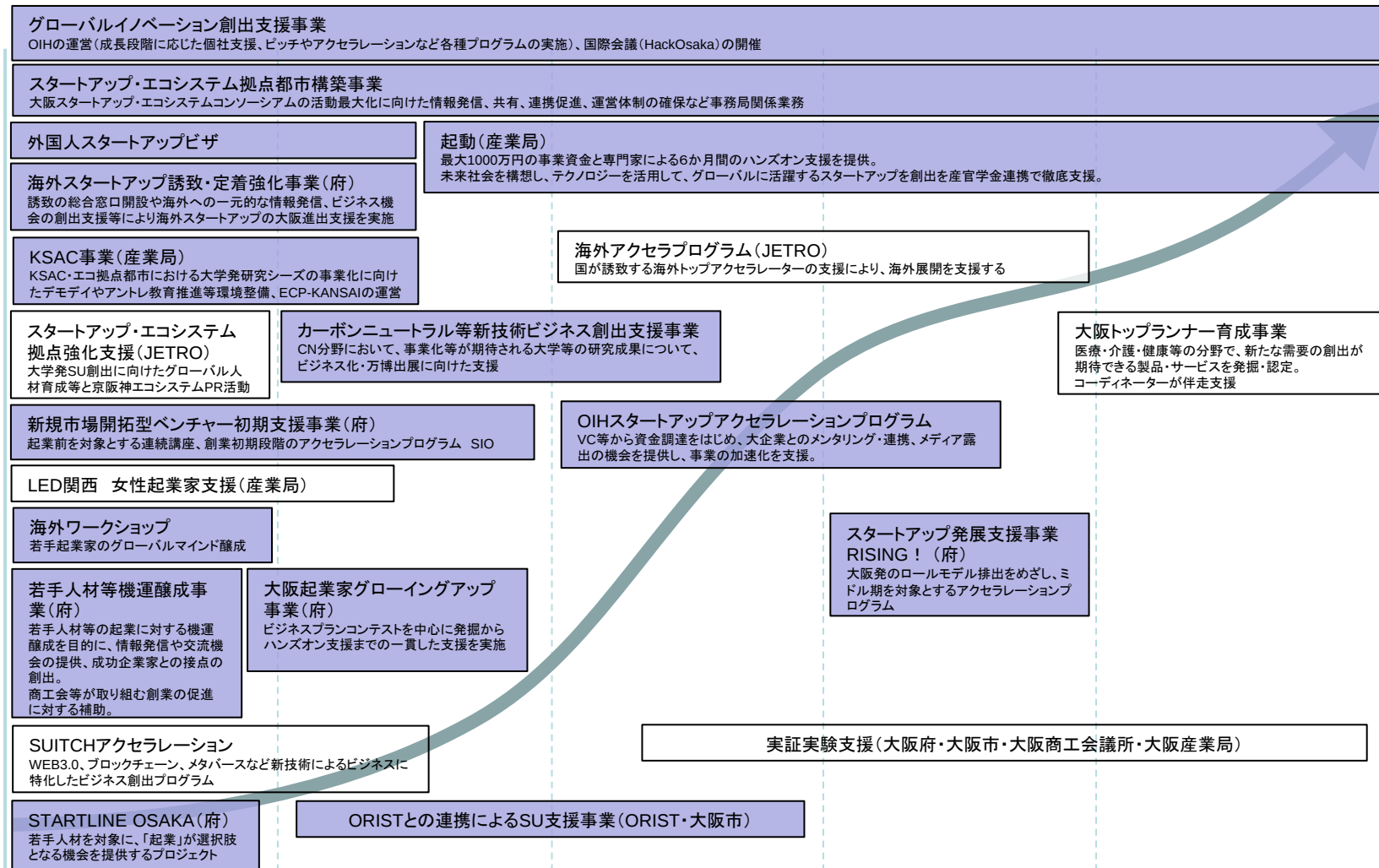
1-5. 注目スタートアップ

1-1. OIHの取組①

- ◆OIHでは、企業の成長段階に応じた個社支援や、各種プログラムを実施
(イベントは年200回以上実施見込み、企業等との面談は2024年4月～12月実績で333件)

大阪におけるスタートアップ支援の全体像

※ OIH事業



1-1. OIHの取組②

具体的な取組例

VC MEETUP・うめきたピッチ

大阪のスタートアップとVCや既存企業等との接点・機会を拡大するため、VC等が定期的に集まる場づくりを行い、スタートアップの資金調達につなげる取組を展開



OIHスタートアップアクセラレーションプログラム (OSAP)

アーリー期を対象に、約5か月間、企業経験者等からのアドバイスや、大企業・VC等との連携により、事業成長の加速をめざす

今年度参加企業数：12社



カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業

CN分野を中心に大学等の有望な新技術を発掘、スピード感を持ってビジネス化支援を進め、万博での出展や実証実験等で活躍するスタートアップを輩出する（2022年度～）

（2024年度までの取組内容）

- ・専門人材による有望なスタートアップの発掘
- ・パビリオン出展企業参加のもと、協業に向けたビジネスプランや連携提案の策定支援
- ・万博出展に向けて、実証実験場所の提供や、投資・事業連携等の支援を要請できる大企業・VCとのネットワークを構築
- ・パビリオンでの魅力的な展示に向けた具体的な支援

1-1. OIHの取組③

海外ワークショップの実施

- ・将来実現してみたいビジネスアイデアを有する若年層や起業に関心のある学生等をオーストラリア・メルボルンに派遣（2024年2月19日～23日）
- ・現地でのビジネス現場の視察や現地で活躍する海外スタートアップ、外国人起業家等との交流やビジネスアイデアのピッチ発表を通じて、参加者の起業マインド醸成とスキル向上の機会を提供
- ・今年度はアメリカ・ボストンに派遣予定



大阪の有望なスタートアップの海外への発信

- ・JETROプログラムを活用し、シンガポールで開催のスタートアップイベント「Switch」に大阪のスタートアップ2社を出展
- ・併せて大阪コンソーシアム各会員の取組等を発信（2024年10月28日～30日）

（出展した2社）

- 株式会社Thinker（ロボットセンサーの研究開発）
- 株式会社Ex-Fusion（レーザー核融合の研究開発）



MEDTECH ACTUATORとの連携

- ・メルボルンを本拠地（2024年9月大阪市内に日本拠点を開設）とする非営利アクセラレーター「MEDTECH ACTUATOR」と連携し、アクセラレーションプログラムを実施
- ・医療・ヘルスケア分野の起業家や研究者などを対象に、グローバル展開を見据え、アイデアをスピーディーに事業化することに焦点を当てたもの
- ・集中講義（2024年8月2日～3日）と、ピッチ予選にて参加企業を選抜し、シンガポールで実施されるプログラムに派遣（2024年9月3日～6日）



1-1. OIHの取組④

国際イノベーション会議 Hack Osaka 2024

国内外のスタートアップエコシステムのプレイヤーが大阪に集結し、大阪の魅力を世界へ発信（今年度は会場を拡大）

（概要・実施状況）

◎開催日時：2024年11月26日(火)10:30～18:30

◎開催手法：リアルとオンラインのハイブリッド形式

※参加者は1183人（リアル：1024人、オンライン：159人）

◎主な内容

- ① セッション：市長とMEDTECH ACTUATOR創業者との対談、NVIDIAやLVMH関係者によるセッションなど、計7セッションを実施
- ② 展示会等：国内外スタートアップ企業77社による出展、うち44社によるピッチ及びSpeed Dating（83件）を実施
- ③ 海外スタートアップピッチ：海外のスタートアップ6社によるピッチを実施
- ④ その他主なコンテンツ
 - ・ GET IN THE RING：オランダ発のスタートアップピッチの日本大会
企業価値に基づき3階級に分かれ、AIをテーマに国内のスタートアップ6社によるピッチ大会を実施
 - ・ OSAKA SPRINGBOARD：海外スタートアップの大阪・関西地区への進出を図るため、シンガポール企業庁と協力し、シンガポールのスタートアップ5社によるピッチを実施



市長とスタートアップ企業との意見交換会

- ・スタートアップの盛り上がりを図り、大阪のスタートアップ支援のブランディングにつなげるために市長とスタートアップ企業との意見交換会を実施
- ・プロモーションの一環として、YouTubeを活用して意見交換の様子を配信

◎開催日：2024年3月28日(木)

◎場所：大阪産業創造館

◎参加スタートアップ：

(株)EX-Fusion (株)bacterico (株)fcuro (株)フツパー



1-2. スタートアップ・エコシステム拠点都市の取組

- ◆世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成に向け、集中支援を受けられるスタートアップ・エコシステム拠点形成プランの公募を国が実施
- ◆大阪は、京都、ひょうご神戸と連携して「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」として国に申請し、「グローバル拠点都市」に選定（2020年7月）

各種国内イベントへの出展

大阪・京阪神のエコシステムの取組について、国内外のVC、大企業関係者、スタートアップに対してPR

- ・SusHi Tech Tokyo 2024（2024年5月15日、16日）
- ・IVS 2024 KYOTO（2024年7月4日～6日）
- ・Hack Osaka 2024（2024年11月26日）



関西スタートアップアカデミア・コアリション（KSAC）

- ・関西地域の27の大学を含む産学官金80機関で構成されるプラットフォーム
- ・大学シーズの実用化や人材育成を強力に支援し、大学発のスタートアップが持続的に創出される環境の構築をめざす
- ・文部科学省の「社会還元加速プログラム（SCORE）」（2021年度）および「大学発新産業創出プログラム（START）」（2021～2025年度※最長で）を活用
- ・起業活動支援（GAPファンド）、起業家教育の指導・支援人材の育成、起業環境の整備（共用試作機器等）、地域のエコシステム形成に取り組む（GAPファンドでは、これまで91件を支援）

次期拠点都市制度に向けた取組

- ◎内閣府拠点都市報告会（2024年7月30日）
 - ・年1回、内閣府により開催。（今年度大阪初開催）
 - ・スタートアップ・エコシステム拠点都市形成計画の進捗について、全国の拠点都市からの進捗報告を内閣府がフォローアップする場として設定
 - ・大阪における取組について国関係者を含む参加者に対してPR
- ◎Startup City Project Network（2024年7月30日～）
 - ・内閣府が主催し、拠点都市の未来について各拠点都市の担当者が議論するイベントやワークショップに随時参加



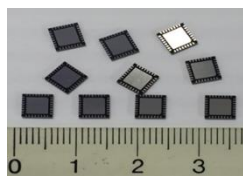
1-3. 産学官連携（大学の技術シーズの事業化支援）

- ◆大学の持つ研究・技術シーズをもとにした産学連携の研究開発に係る費用の一部を補助することで、実用化に向けた取組みを推進し、もって本市の経済活性化及びイノベーション創出を図る

大阪市イノベーション創出支援補助金

- 【概要】
- ・補助対象は**国内の大学**
 - ・**大阪市内に事業所を有する**民間企業又は個人との連携事業（※特例あり）
 - ・補助率：2分の1（上限額200万円）

- 【成果】
- ・2023年度までに119件、27大学に交付（うち18件が実用化済）



(株)SIRC

(株)SIRC（大阪公立大学発ベンチャー）

- ・1辺約5mmという超小型電力センサの開発



あっと株式会社

あっと株式会社（大阪大学発ベンチャー）

- ・指先を傷つけない毛細血管観察画像観察装置の開発

(株)mediVR（大阪大学発ベンチャー）

- ・VR技術を用いたリハビリ機器を開発、販売



(株)mediVR

1-4. 数字で見る成果

◆目標に対して、おおむね順調に成果をあげている

大阪市イノベーション創出促進事業の目標

目標	数値	達成状況 (2024年3月末時点)
新たなプロジェクトの創出・推進支援件数	412件以上（2021～2025年度）	261件
スタートアップ等における資金調達額	400億円以上（2021～2025年度） ※2020年度以前に支援した企業が新たに資金調達した額を含む。	315億円

大阪スタートアップエコシステム・コンソーシアムの目標

KPIの項目	大阪の目標	数値	達成状況 (2024年3月時点)
スタートアップの創出	◎スタートアップの設立件数	300社	465社
	◎うち 大学発スタートアップの設立件数	100社	128社
スタートアップの成長	◎ユニコーン輩出件数	3社	0社
	◎5億円以上調達のスタートアップ件数	75社以上 ←当初50社	92社
起業家の聖地	◎外国人起業家の誘致件数	20社	37社
	◎スタートアップVISAの活用数	30者 ←当初3者	26者
スタートアップの活躍	◎万博を契機に活躍するスタートアップ 輩出件数	50社	—

1-5. 注目スタートアップ①

株式会社EVAセラピューティクス

サービス内容

腸を介して高濃度溶存させた液体から酸素を取り込み、全身の酸素化を可能とする呼吸法「腸換気法」の技術を活用して、医療機器の開発に取り組む。

大阪産業局の関わり、成果等

- ・2023年12月 OSAP第16期
- ・2024年7月 第2回HeCNOS AWARD（ヘクノス・アワード）受賞
大阪ヘルスケアパビリオン（明日が楽しくなる町「スマートヘルスケアタウン」プロジェクト）の出展に向けた支援中。

OIHのプログラム活用

eva
therapeutics, inc.



Rescue for Preterm Infants

pick up! 腸換気技術で超未熟児の命を救う

肺に依存しない腸呼吸システムは、低酸素状態を改善する効果として現在ヒトでの臨床試験段階にありますが、日本で年間25000人にのぼる超低出生体重児のレスキューセラピーとして開発します。

リバスキュラーバイオ株式会社

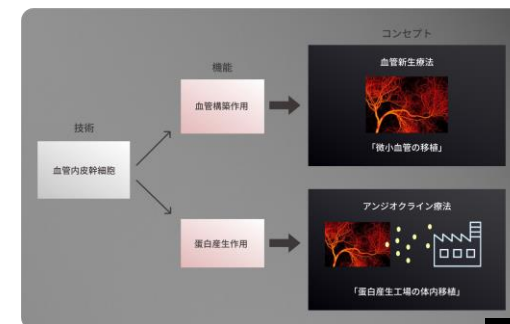
サービス内容

血管内皮幹細胞を利用した細胞治療薬の研究および開発に取り組み、血管内皮幹細胞の移植により微小血管を再構築することで虚血性疾患や移植医療における課題解決をめざす、大阪大学発スタートアップ。

大阪産業局の関わり、成果等

- ・2023年12月 関西スタートアップインキュベーションプログラム「起動」第2期採択
- ・2024年 JETROグローバル・スタートアップ・アクセラレーションプログラム 2024 BioTech/MedTech コース 採択

大学発スタートアップ



1-5 . 注目スタートアップ②

株式会社ABABA

サービス内容

就活の過程が評価されるスカウト型評価サービス。最終面接まで進んで採用できなかった就活生に対して、他の類似企業からのスカウトが届くダイレクトリクルーティングサービスを提供。

大阪産業局の関わり、成果等

- ・2021年8月 OIH・(株)NTTドコモ・ベンチャーズ共同主催 スタートアップピッチ登壇
- ・2022年12月 OSAP第14期採択
- ・2024年5月 (一社)日本経済団体連合会 入会

OIHのプログラム活用



BABY JOB株式会社

サービス内容

保育施設向けの紙おむつ・おしりふきのサブスクサービス「手ぶら登園」や、保育施設向けのキャッシュレス決済サービス、また保護者の保育施設探しをDXする「えんさがそっ♪」等、保護者や保育士の負担を軽減し、すべての人が子育てを楽しめる社会の実現に取り組む。

大阪産業局の関わり、成果等

- ・2020年 JETROスタートアップシティ・アクセラレーションプログラムGlobal Preparationコース採択
- ・2022年7月 OIH起業家ライブラリにて取材掲載
- ・2022年7月 スタートアップ発展支援プロジェクト「RRISING!4.0」採択
- ・2024年12月 東京証券取引所 TOKYO PRO Market に上場

IPO事例



手ぶら登園



えんさがそっ♪



誰でも決済



2. 前回評議会(2023年度)における主なご意見について

【大学発の取り組みについて】

- K S A Cの取組内容は素晴らしいので、今後も深堀してほしい。
- 国は大学発の研究成果の事業化支援として多額の予算を計上しており、大学だけではなく、自治体、民間企業、経済団体を巻き込んで大学発スタートアップの支援を進めていくことが重要な時期に来ている。

【ユニコーン創出などスタートアップの成長に向けた支援について】

- ユニコーン創出に向けて、戦略やロードマップみたいなものがあればと思う。
- 成長が見込めるスタートアップの支援にもっと力を入れる必要がある。
- 関西圏にこれだけユニコーンに近いものがあるということを明示していくことが重要。
- 女性のキャピタリストであったり、起業家をさらに育成していく必要がある。
- ユニコーン企業や、グローバル企業の創出に向けて、大阪イノベーションハブの体制の構築が必要ではないか。

【情報発信について】

- 多くのスタートアップが万博への出展を希望していると聞いているので、できるだけ多くの方に広報を行うことで、機運醸成の一助としてほしい。
- 海外VCが集まるようなスタートアップイベントに出展し、大阪のスタートアップについて情報発信を行うことは良い取り組みだと思う。
- ディープテックへの投資が増えていることは、海外へ発信するにあたってとても良い数字になる。見せ方をうまくして、ディープテックが盛り上がっていることをうまく発信していけると良いのではないかな。

評議会の皆様から頂いたご意見やスタートアップ関係者からのご意見を踏まえ、
今後の中長期的な方向性を検討

3. 今後の取組について

3-1. スタートアップ支援施策の中長期的な方向性について

3-2. 大阪イノベーションハブの機能見直しについて

3-3. 万博に関連したスタートアップ関係の取組

3-1. スタートアップ支援施策の中長期的な方向性について

・スタートアップ(SU)支援施策のめざすところ
SUが次々と生まれ、大きく育つ好循環(SUエコシステム)をつくり、大阪経済の活性化を図る。

これまでの取組の方向性

- ・SUの創出に向けた取組を行政が中心に実施
大阪イノベーションハブ(OIH)の取組
イベント等の実施によるイノベーションやSUの創出、SUの成長支援や資金獲得に向けた支援等、幅広く実施
国際イノベーション会議
イノベーションやSU創出のきっかけづくりとして、世界最先端の情報を共有、大阪・関西の情報を世界へ発信する会議(イベント)を実施

主な目標の達成状況

SU創出が進み、設立数は達成。大きく育ったSUの指標であるユニコーンは輩出できていない

KPI (2020～2024年度累計)	大阪の目標	現状 (2020～2023年度累計)
スタートアップの設立数	3 0 0 社	4 6 5 社
大学発スタートアップの設立数	1 0 0 社	1 2 8 社
5億円以上調達スタートアップ数	7 5 社	9 2 社
ユニコーン輩出件数	3 社	0 社

※ユニコーン：企業評価額10億ドル以上等
※スタートアップ・エコシステム拠点都市における大阪の目標

現在の到達点

- ・プレシード期のSUを支援する民間機関が市内に生まれ、大学もSU創出に向けた取組を強化している。
- ・産学官金56団体からなる「大阪SUエコシステムコンソーシアム」が発足し、SU成長を支援する体制が構築された。

当面の課題

- ・シード～アーリー期は成長支援のビジネスモデルが少なく、支援が手薄
- ・大学発SUや万博に出展するSU等の高い成長が見込まれる分野のSUへの支援が手薄
- ・起業やSUに興味がある若者や学生は増えてきたが、担い手不足がSUの成長に大きな課題
- ・SUの成長に欠かせない国内や海外の支援主体は、さらなる連携が必要

当面の取組の方向性

SUエコシステムの形成に向けて、SUは生まれているが大きく育ちにくい状況を克服するため、民間の支援が手薄な部分を行政が担い、産学官金が一体となって支援の充実をはかり、SUの企業規模（企業評価額）拡大につなげる。

【主な取組】

1. メリハリのあるスタートアップ支援

支援が手薄なシード期からアーリー期の成長段階にあるSUや、大学発SUや万博出展SU等について、行政が注力して支援し、民間が支援のノウハウを有するミドル期からレイター期と早期につなげることで、SU成長の好循環を生み出す。

2. 新たなSUの担い手を創出・国内外のSU支援ネットワークを強化

大学生や若手起業家等の新たなプレーヤーの創出や獲得、国内の様々なSU支援主体との連携強化・拡大、姉妹都市など大阪市の持つネットワークを活用した海外の支援機関との連携を一層強化することでSUエコシステムの強化を図る。

3. 「大阪ブランド」の確立

様々なメディアや機会を活用し、大阪のSU支援やイチオシのSUを国内外に発信することで大阪のブランドを確立し、世界中から人・モノ・投資等を呼び込むことで、SUエコシステムの成長を加速する。

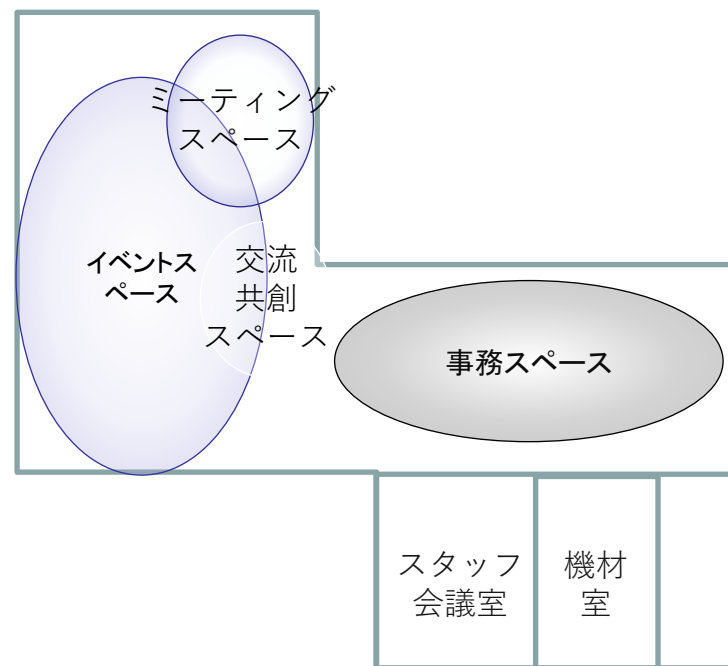
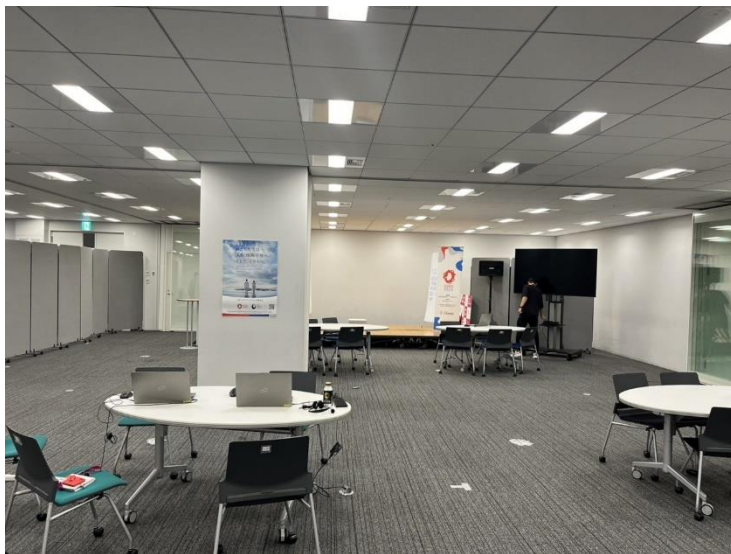
3-2. 大阪イノベーションハブの機能見直しについて

民間施設等の支援が十分に行き届いていない領域(特にシード・アーリー期)への対応も含めて、スタートアップ企業の支援を強化するため、面積を拡大のうえ、より利用しやすい施設レイアウトへの変更と施設利用の運用について見直しを行う

(想定イメージ)

- ・個別面談ブース、オンライン面談ブースの設置
- ・交流共創スペースの拡充
- ・来館者とのコミュニケーションが促されるような施設の運用 等

現在のOIH



3-3. 万博に関連したスタートアップ関係の取組

(1) 新たなグローバルスタートアップイベントの開催（仮称新HackOsaka）

万博を契機にスタートアップ企業が成長するきっかけづくりを行うために、国が万博会場で開催する「Global Startup EXPO 2025」と連携して、成長を求める国内外のスタートアップ企業や新たな事業展開・投資を検討している投資家等の双方が実利を得ることができる商談会に軸足を置いたイベントを開催する

2025年度の取組内容

- ・商談会、ピッチ・展示会などを核とした新たなグローバルスタートアップイベントを開催する
- ・成長を求めるスタートアップや新たな事業展開・投資を検討している投資家等を対象とし、国内最大規模の商談イベントとして、スタートアップ企業の成長の促進につなげる

(2) カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業

CN分野を中心に大学等の有望な新技術を発掘、スピード感を持ってビジネス化支援を進め、万博での出展や実証実験等で活躍するスタートアップを輩出する（2022年度～）

2025年度の取組内容

- ・企業にとって効果的なPRの場となるよう、引き続き、会場における展示についてのブラッシュアップ等を進める
- ・出展後のフォローとして、万博会場以外におけるPR機会の創出や、引き続き事業化に向けた支援を展開

参考：これまでの取組内容（再掲）

- ・専門人材による有望なスタートアップの発掘
- ・パビリオン出展企業参加のもと、協業に向けたビジネスプランや連携提案の策定支援
- ・万博出展に向けて、実証実験場所の提供や、投資・事業連携等の支援を要請できる大企業・VCとのネットワークを構築
- ・パビリオンでの魅力的な展示に向けた具体的な支援

(参考資料) スタートアップ・エコシステム拠点都市の概要について

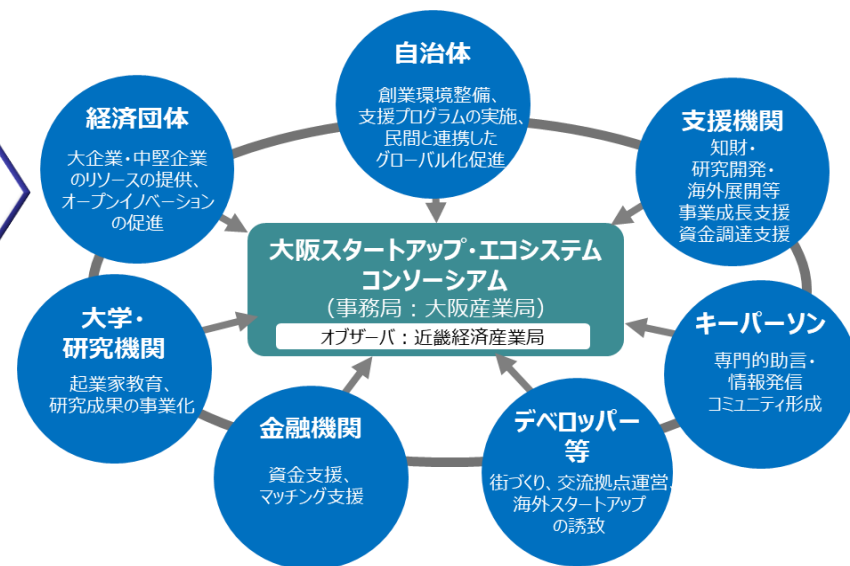
- 国は、シリコンバレーやニューヨークのように世界に伍する日本型のスタートアップ・エコシステムの拠点の形成と発展をめざし、スタートアップや支援者の一定の集積と潜在力を有する都市において、地方自治体、大学、民間組織等が策定するスタートアップ・エコシステム拠点形成プランを公募。
- 拠点に選定された都市には、関係省庁等が一体となった集中支援を実施。
- 大阪は、京都、ひょうご神戸と連携して「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」として申請し、「グローバル拠点都市」に選定された（2020年7月）。

- ・グローバル拠点都市 東京・横浜等、名古屋・浜松、**京阪神**、福岡の4カ所
- ・推進拠点都市 札幌、仙台、広島、北九州の4カ所

拠点都市に対する 国の支援策

- ・JETRO ⇒ ・海外トップアクセラレーターによる
アクセラレーションプログラム
・拠点都市機能強化プログラム
- ・文科省 ⇒ ・大学発新産業プログラム
(SCORE・STARTを活用するKSAC事業(※))
- ・経産省 ⇒ ・産学融合拠点創出支援事業
- ・内閣府 ⇒ ・各拠点都市間でのネットワーク拡充と
ベストプラクティスの共有 など

大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム



(参考資料) 万博に関連したスタートアップ関係の取組

- 大阪ヘルスケアパビリオン内で行う「リボーンチャレンジ」では、万博に向けて新技術開発などに取り組む、優れたスタートアップの技術力や魅力を、各支援機関の企画した「リボーンチャレンジ」を通じて、国内外へ広く発信する。



「リボーンチャレンジ」では、26の展示企画が毎週入れ替わり、カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業の支援先スタートアップ等が出展。

○展示企画例

「カーボンニュートラル トレジャーハント ～便利な未来を支える技術たち～」(7/1～7/7) 16社

環境への配慮がなされ、カーボンニュートラルの実現に貢献するスタートアップが提供する製品の展示・来場者へ体験を通じ、地球温暖化など環境に関する問題への意識への気づきや、自身ができる行動変容の促しにつながる展示をめざす。

「明日が楽しくなる町「スマートヘルスケアタウン」プロジェクト」(6/24～6/30) 17社

大阪ヘルスケアパビリオンのメインテーマであるヘルスケア分野において、スタートアップが開発するイノベーティブな製品・サービスの展示を行い、来場者に体験してもらうことで、人々の「いのち」と「健康」を守り、誰もが楽しく安心して生活できる未来の暮らしを提案する。